| 授業科目名 | 開講年次 | 開講時期 | 単位数 | 時間数 | 実務経験 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小児看護学援助論Ⅰ | 2年次 | 前期 | 1 | 30 | 有 |

| | |
|---|---|
| 科目責任者 | 小瀧　亜矢子 |
| 授業概要 | 小児看護学概論で培った学習内容を活用し、病気と障害をもつ小児とその家族に必要な援助方法を学ぶ。 |
| 目標 | 1．子どもの病気の理解について理論や発達的特徴と関連させて理解できる<br>2．痛みのある子どもと家族の状況と必要な看護が理解できる。<br>3．子どもの検査・処置における看護の役割を理解し、必要な看護援助を述べることができる。<br>4．健康の状態に応じた子どもと家族の理解をし、必要な看護援助を述べることができる。<br>5．子どもの手術の特徴を理解し、術前・術後の子どもと家族への看護援助を述べることができる。<br>6．外来看護の果たす役割を理解し、外来受診する子どもや家族への看護援助を述べることができる。<br>7．児童虐待の現状を理解し、被虐待児および家族への看護援助について述べることができる。<br>8．災害が子どもと心に及ぼす影響を理解し、子どもと家族への看護援助について述べることができる |

授業内容

| 回 | 内容 | 担当 | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 病気に対する子どもの理解と説明　プレパレーション | 小瀧 | 講義 |
| 2 | 病気や診療、入院が子どもときょうだい、家族に与える影響と看護 | 小瀧 | 講義 |
| 3 | 痛みを表現している子どもと家族の看護 | 小瀧 | 講義 |
| 4 | 外来における子どもと家族の看護・救命救急処置が必要な子どもと家族の看護 | 小瀧 | 講義 |
| 5 | 急性症状のある子どもと家族への看護（発熱・脱水・下痢・嘔吐・呼吸困難・子どもと家族の看護） | 小瀧 | 講義 |
| 6 | 周手術期における子どもと家族への看護 | 小瀧 | 講義 |
| 7 | 医療ケアを必要として退院する子どもと家族への看護 | 小瀧 | 講義 |
| 8 | 子どもの死の理解と、終末期の子どもと家族の緩和ケア | 小瀧 | 講義 |
| 9 | 小児のアセスメント　バイタルサイン・身体計測 | 小瀧 | 講義 |
| 10 | 検査処置を受ける小児の看護(採血･骨髄･腰椎穿刺) | 小瀧 | 講義・演習 |
| 11 | 検査処置を受ける小児の看護（与薬・輸液療法） | 小瀧 | 講義・演習 |
| 12 | 検査処置を受ける小児の看護<br>(プレパレーション・ディストラクション演習) | 小瀧 | 講義・演習 |
| 13 | 検査処置を受ける小児の看護<br>(プレパレーション・ディストラクション演習) | 小瀧 | 講義・演習 |
| 14 | 虐待を受けている子どもと家族への看護 | 小瀧 | 講義 |
| 15 | 災害を受けた子どもと家族への看護 | 小瀧 | 講義 |

| | |
|---|---|
| 履修条件 | なし |
| テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕　小児看護学概論小児臨床総論　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕　小児臨床看護各論　医学書院 |
| 参考書 | なし |
| 評価方法 | 試験(100%) |